

【藤嶺藤沢、強豪横浜に全力の熱戦 0対4で敗れるも健闘】

第107回全国高校野球選手権神奈川大会の注目カード、藤嶺藤沢と横浜の一戦は、0対4で藤嶺藤沢が惜敗、横浜が勝利を収めた。優勝候補筆頭とも言われる強豪横浜を相手に、藤嶺藤沢は最後まで粘り強く食らいつく姿勢を見せ、スタンドからは惜しめない拍手が送られた。

試合前、香西教頭は「相手は今、日本一強いチームだからその相手と試合ができることを誇りに思い、伸び伸びと試合をしてほしい。」と語った。応援団長の富高さんは「勝利のため最後まで全力で頑張りたい。」と意気込んだ。

打線では、内海選手が意地の一打を放ち、チームに希望をつないだ。他の選手も懸命に食らいつき、相手エースの織田翔希投手に果敢に挑み続けた。投手陣では、先発の今泉選手が強力打線を相手に4回を粘りの投球でしのいだ。2番手の井手選手は、続く4イニングを無失点に封じる力投を見せ、試合の流れを引き戻そうと奮闘した。

一方の横浜は、阿部葉太選手や池田聖摩選手の活躍などで得点を重ね、終始試合を優位に進めた。織田投手は、被安打1、奪三振12の投球で完投勝利した。結果は0対4となったが、藤嶺藤沢は「日本一」とも称される相手に対し、全力を尽くして戦い抜いた。試合後には新聞社やスポーツ関連メディアなど多くのマスメディアが駆けつけ、健闘をたたえるインタビューが行われた。

試合後、菊地監督は、これまで部員を支えて来られた保護者の方へ挨拶をした。「スタンドからの大声援、本当にありがとうございました。このチームは、最初はまだまだ弱かったと思います。だからこそ、チームワークを大切にし、

一人一人が必死に練習に取り組みました。“弱い”と言いながらも、この一年で神奈川の強豪校に勝てたことは、大きな一歩だったと思います。今日という日は終わって欲しくないです。78期生と一緒に野球をやった日々はとても楽しく、明日から3年生がグラウンドにいないと思うと、寂しさと不安でいっぱいです。今回の大会に向けて、『甲子園に行く』という目標を口に出して挑戦してくれた若いスタッフや3年生の皆さんの姿に救われました。今後も78期生の思いを引き継ぎ、チーム一丸となって頑張っていきます。本日は本当にありがとうございました。」と、時折涙で声を詰まらせながら語った。

内海主将は、「本日はありがとうございました。話すのはあまり得意ではないのですが、僕たちはこれまで“弱い”チームでした。でも、しっかり練習を重ねて、たくさんの保護者の方々や部員に支えられながら、ここまでやってこれることができました。2年生には、僕たち78期生の思いを背負って、これからも頑張ってください。」と目を潤ませながら語り、最後に「——クリスで終わしましょう！」と笑顔を見せた。すると、背番号17の松島久梨洲選手が一步前に出て、「3・2・1、勝つぞー！」とユーモア全開の“声出し”で場を和ませ、会場は笑いと拍手に包まれ、仲間の絆の強さを表す感動の一シーンとなった。

最後は、3年生全員で記念写真を撮り、藤嶺藤沢硬式野球部の夏は幕を閉じた。しかし、藤嶺藤沢の挑戦は、これで終わりではない。78期生の思いを胸に、次なる世代がバトンを受け継ぎ、新たな物語を紡いでいく。いくぞ甲子園。

写真1. 内海主将 2塁打を放つ

写真2. 緩急自在揺さぶるテンポ投球、今泉投手

写真3. 闘魂投球で相手打線に挑む井出投手

写真4. 惜しまぬ拍手 健闘への敬意、感謝

写真5. 声が届く、選手と一つになり戦う

- 写真 1.
写真 2.
写真 3.
写真 4.
写真 5.



【新聞部 秋山 大庭 川村 堀竹】